

平成 29 年度

学 校 評 価

<記入上の留意点>

- 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。
- 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。評価ⅣはABCDで記入する。
- 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

◎ 評価Ⅰ、評価Ⅱの基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅲの基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後の期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅳの基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

尼 崎 市 立 尼 崎 高 等 学 校

平成29年度 学校評価

[各校の重点取組について]

・「生きる力」の理念に基づく知・徳・体の総合的な育成を目指し、本校の特色である「文武両道」を極める。

・未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成を目指し、より良い社会を作る人材の輩出に努める。

学校教育に関する重点取組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育の取組を充実させ、自立や社会参加に向けた主体性を育成する		3	4
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学時から基礎と基本の充実を図り、学力向上の基盤を作ることに主眼をおく。 ・ 「生きた知識・技能の習得」など新しい時代に求められる資質・能力を育成するために「アクティブラーニング」の観点から授業改善に取り組む。 ・ 市教育委員会の学力向上事業を活用し、外部講師の招聘による補習を行う。 ・ 特別な支援を必要とする生徒の情報を共有して、一人ひとりを大切に指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 習熟度別あるいは選択科目の増加により、時間割にゆとりがなくなっている。 ・ 計画的な研究授業と指導案の検証を繰り返し、授業の実施に向けて学校全体で取り組む。 ・ アクティブラーニングを学校の分掌の一つとして研究することも必要と思われる。 ・ 部活動と補習の両立に課題が残る。 ・ 特別支援教育の研修を計画的に実施し、特別支援教育に対して知識と技術を身につける。 		

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (2) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (3) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する		3	4
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の生き方についての考えを深める学習を通じて、道徳的な判断力や心情、実践力を育成する。 ・ 一人ひとりの生徒がそれぞれの目標を持って主体的に活動できる環境を整えるために、各種アンケート等を実施し、実態の把握と同時に、多面的な生徒理解に努める。 ・ カウンセリング委員会を定期的開催し、生徒全体あるいは個人の情報について共有を深め、早めの対応を心掛ける。 ・ 人権尊重の精神で、偏見と差別の本質を正しく捉え、その解決に向けて取り組む姿勢を養う。 ・ ボランティアに係わる体験的な学習等、教育活動全体を通じてキャリア教育に取組み、計画的な進路ガイダンスを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観察力を高め、生徒の変化に気付くための一つの方法として、アンケートの内容分析を行う。 ・ カウンセラーと連携し、生徒の日常生活における変化に気を配り、校内教育相談体制を更に充実させる。 ・ 教員自身がこころにゆとりを持って、しっかりと生徒と向かう。そのための適切な人員配置も必要。 ・ 就業、就労先の情報収集・新規開拓や、大学などの特色の把握に努め、生徒・保護者への積極的な情報提供を行っていく。 		

3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3	4
(1) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (2) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る		
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> 学校保健委員会を定期的開催し、生徒の家庭状況の把握に努め、家庭との連携を密にする。 新体力テスト等の経年データの分析に努めて体力及び運動能力を客観的に把握し、健康な体づくりに取り組む。 本校の特色「文武両道」の実践のために、部活動参加を奨励すると同時に一人ひとりの現状に合った体づくりを図る。 食堂業者とのメニュー(カロリー計算・アレルギー成分表示)等の打合せを適宜協議して、生徒に安全・安心な食事の提供に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任、学年をこえて必要な生徒情報を共有する。そのためにカウンセリング委員会の機能をもっと高める工夫が必要。 体育の授業や部活動などの体育活動においては、生徒の技能や体力に応じた科学的指導を行う。 適切な健康観察や休息の実施、定期的な施設用具の点検などを行い、安全の確保に細心の注意を払う。 食材の価格変動により安価で提供を続けるのは難しい。特に食育に関しては、学校と家庭が連携して取り組まないと効果が期待できない。 	

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3	3
(1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る		
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> 教育活動全体を通じて安全教育を行う。自転車乗車時の交通ルールの指導および歩行中のマナーの指導とともに自転車通学においては自転車保険の徹底を図る。 校内安全衛生委員会等で、定期的に校内施設の安全点検および危険箇所の早期発見、修繕等対策に努める。 自然災害等から自らの身体生命を守るために、総合避難訓練や救急救命講習等を活用して、「日常の心がけ」の啓発および災害遭遇時の行動について指導する。 教職員全員がAEDの操作に慣れるように、講習等を積極的に受講するなどして、生徒の安全を確保する努力をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 一定の自転車のマナーの向上は見られるが、周囲の大人も含めた国民的自転車マナーの向上運動が必要と思われる。 学校から離れた場所でのマナー遵守が課題。 車や単車の動きにも注意して、今後警察等しかるべき機関と連携して交通安全のさらなる充実を図っていく。 「AED講習」や、災害時、救急時の対応について、不断の心構えを指導する必要がある。 地域と連携した実践的な防災訓練を更に充実したものにしていく。 	

5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3	3
(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 地域の教育力を活用した取組を促進し、地域とともにある学校づくりを推進する		
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> 公開授業週間を設けて、保護者等からの意見や感想も取り入れ、また教職員間での切磋琢磨を通じて授業のよりよい方向の改善を図る。 教科研究会の開催や、授業アンケートを通じて、チーム教科、チーム学校として活力のある学校づくりに取り組む。 自主的、自発的な活動で、生徒一人ひとりの個性を伸ばし、好ましい人間関係を育てるという部活動の意義を再認識しながら対話を重視した指導を行う。 積極的に地域の行事に係わり、好ましい地域との関係を築きながら、地域とともにある学校づくりを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業週間を設けているが、実際の見学者は少ない。今後は広報に力を入れて行くとともに、教員も他教科の授業等に参加できるようにしたい。 生徒の様々なニーズに対して、学校としての「是々非々」の筋を一本通して、取り組みたい。 学校ホームページの更新を適宜行い情報の公開・発信を積極的に行うために、専門の技術を持ち、熱意のある人材を分掌として配置する。 	

教育目標	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3	3
(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実		

取組とその成果	課題と改善策
<ul style="list-style-type: none"> ・「人間尊重の精神に徹し、一人ひとりを大切に人間の育成」を目指して生徒が相談しやすい環境を整え、いじめ、体罰の根絶に努める。 ・「真理を愛し、文化の創造と発展に寄与する人間の育成」のため国際感覚を養い、多面的な視点を養うことを目指す。 ・「個性豊かにして創造性と自主的精神に富んだ人間」の育成を目指し、ボランティア活動や文化部活動に取り組む。 ・「体育に関する知識や高度な運動技能の習得を通じて、知・徳・体の調和の取れた人間形成を目指すとともに、体育・スポーツの振興に寄与する態度を育てる」ために一人ひとりの状況に応じた適切な指導を行い、運動部としての競技実績の向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標への理解及び達成へ向けた取組に個人差がある。校内研修の参加者が増加する工夫が必要と考える。 ・日々の教育活動に、教育目標を反映させていく。 ・進学率アップを目的とせず、人格の形成を目指す教育の結果として進学率に繋がるような工夫をする。 ・異校種交流をすすめ、特別支援教育への理解を深めたい。

研究テーマ	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3	3
(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実		

取組とその成果	課題と改善策
<ul style="list-style-type: none"> ・「国際総合類型」の在り方を基に、各教科や学年、部の中で議論を深め、校務運営委員会の中で整理をする。 ・「国際総合類型」について、分かりやすい形、目に見える形にして、外部に向かって情報の発信に努める。 ・文武両道と規律ある生活を通じて、「生徒達があるべき自分の本当の姿を模索し、未来を切り開く人材に育つ」ように、教員としての関わり方や、授業の改善について取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業を活性化させ、研究協議の時間を持つことにより、日々の授業にスパイスを添加し、授業力の向上を図っていく。 ・部活動においては、全教職員の努力と協力のもと、好成績を収めていると自己評価している。 ・「文武両道」の本校の特色づくりのために、勉学と部活の時間配分・調整が課題である。 ・「研究紀要」等の作成により、教員相互の研究や教材開発に意欲的になるような仕組みを考えたい。

	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)

取組とその成果	課題と改善策

学校関係者評価

※ 評価Ⅲの基準

4:よく取り組んでおり、成果が大きい
2:取り組んでいるが成果が十分でない

3:熱心に取り組んでおり、今後の期待できる
1:取組が不十分である

学校関係者意見等	評価Ⅲ
<p>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低学力生徒の学力向上の取組を強化して「文武両道」を目指して欲しい。 ・早朝補習や放課後補習、三年生の部活引退後の集中補習で、進学率も上がっていると思う。先生方の教育への熱意が感じられる。 ・クラブとの両立は、やはり時間的な面でも難しいと思われるが、最大公約数を高める工夫があれば、なお良い。 	4
<p>2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動を含めて教師主導から生徒主体の学習に移行してもらいたい。 ・学校内外でのマナーを守る生徒も多く、特に校内では外からの訪問者にも大きな声で挨拶もできている。「完全」というのは難しいが、続けて頑張ってもらいたいと思う。市尼の生徒はよくできていると思う。 	4
<p>3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育科を中心として運動部の活躍はめざましく、食育・体育・健康な身体作りができていると思う。 ・若いうちに鍛えた身体は、後から分かるが、「宝」ともなる。しっかりと取り組んでもらいたい。 	4
<p>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年同じ想定ではなく、違う想定で避難訓練をした事は評価できるが、回数をもっと多くした方がよいのではないか。 ・災害からの避難訓練は大切だが、もっと確率の高い日常の交通安全指導にも、もっと取り組んで、どうだろうか。 	4
<p>5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活気に満ちた学校園づくりに取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな人間関係の育成に、地域のかも活用してはどうか。 ・通学区域が拡大し、普通科も他地区、他市からの入学生が増え、地域との連携が意識の上でも希薄となりがちだが、何か新しい観点で地域との連携が必要ではないか。 ・地域への情報提供の方法としてはネットよりも、昔ながらの掲示板の活用を考えては、どうか。 	3
<p>■教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市立尼崎高校の今後のあり方について、体育科の是非も含めて教職員全員が現状について課題意識を持ち、将来の指針を示せるよう期待したい。 	3
<p>■研究テーマ</p>	
<p>■その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者アンケートについて、より深く分析し、効果を大にすることを期待したい。 ・たいへん良い取組を行っているので、もっと全面に数値でもって示せば良い。 	
<p>評価項目 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)</p>	<p>評価Ⅳ</p>
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	A
自己評価の結果の内容は適切か	A
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B